恋雫　3

里恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
恋雫　３

【Ｎコード】
Ｎ２４３４Ｄ

【作者名】
里恵

【あらすじ】
百合枝は昨日、姫香に勇也が好きだと、言われる。やっぱり・・・衝撃が大きかった百合枝。親友の仲はくずさないように、努力するつもりだった。だが、百合枝の見ている前で姫香と勇也が！？？

第3話　走れ自分

時間が長々と過ぎてゆく。

私はずっと姫香の走る背中を後ろでただ見ているだけだった。

姫香は私に、

「百合枝??こっちおいでよ。」

・・ともなんとも言わずに、言ってしまうのだった。

バサッッッ

「何??今の夢。」

凄くある意味で恐かったのだった。

私の身に降り掛かって来るのでは??

そう思うと、ある意味・・

「恐い!!ヤダ!朝御飯行こっ!!」

ベッドからカッコよく、軽く・・飛び降りた後で、出したままの紅茶が置いてある。

「昨日＞
姫香がきたんだよね・・。」
忘れかけてた記憶の中で、唯一　姫香だけは忘れられない。

「勇也、今度、勉強会でもしない？」
姫香が勇也を呼び出し、誘う。

「栗山も誘っちゃ、ダメ？？」

聞いている事・・バレないかな・・
・・っていうか、私も？？

「・・・イイケド。」
立ち去ろうとした、勇也。
でも、
「待って。」
・・という姫香の言葉に足を止める。

「どうしてさ、百合枝を誘いたがるの？
あの人、私の親友としては良い子だけど、私・・」

言った瞬間抱き着く。

「勇也が好き。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2434d/

恋雫　3

2010年11月21日14時21分発行